

風土記の丘の花だより¹⁵⁴

今、そしてこれから見られる植物(2022年10月2日)

虫の話で恐縮ですが、秋といえば赤とんぼですね。でも、風土記でよく飛んでいる赤とんぼはアキアカネではなく、ほとんどがウスバキトンボです。言われて見れば、体が赤くないでしょう。たまに枝の先などに止まっている体が真っ赤で、羽の先が黒っぽいのはリスアカネという赤とんぼです。また、よく見てください。さて、



アカネの花が咲きました。と、大声でいうほどの花ではありません。写真のように白っぽくて、とても小さな花ですので、通りすがりに目に入るような花ではありません。万葉植物園入り口の手前で見られます。大きくなるたびに草刈りに遭い、なかなか大きくなれません。茎を触るとざらざらしています。その刺で他のものに寄りかかって生きています。



オオオナモミにも花が咲いています。「ひつつき虫」としてよく知られていますが、花は全く注目されませんね。丸いのが雄花、トゲトゲしたのが雌花で、これが大きくなって、ひつつき虫になるのです。オオオは大きいこと、次のオオオも大きいという意味、ナモミは「なもむ」という「何かにくつつく」という意味の古い言葉だそうです。修復古墳の西に群生しています。



ナンテンハギの花を紹介するのは初めてだと思います。きれいな花ですが、生えている場所を説明するのがややこしかったからです。アセビの手前の右下のフェンスの外と言ったらお分かりでしょうか？風土記にはこんなのも生えています。マメ科ですが、葉がナンテンに似ていますね。



同じくマメ科のヤブマメもきれいな花を咲かせています。細長くて先でパッと開いた花を下向きに付け、もうすぐ豆ができます。さらに、こんな花とは別に、地中にも花びらのない花(閉鎖花)をつけて、そこでも豆ができるそうです(私はまだ見たことはありませんが・・・)。興味深い生態ですね。 松下